

2025-7-24

## 根絶を達成した奄美大島マングース防除事業について

石井信夫（東京女子大学）

### 1. 対象地域と対象種

- ・奄美大島（鹿児島県、712km<sup>2</sup>）
- ・フイリマングース *Urva auropunctata*（食肉目マングース科）

### 2. 奄美大島におけるマングース問題の経緯

- 1979年頃 名瀬市中北部でハブ駆除を目的として約30頭放逐。
- 1990年頃 農作物・家禽食害問題化
- 1991年 生態系影響の指摘
- 1993年度 農作物・家禽食害防止のための有害獣駆除開始（生捕わな、報奨金制度）
- 1996～1999年度 環境庁による調査事業：島の40%に定着、個体数は約5000～10000頭、年増加率は40%、多くの希少在来動物を捕食。  
→ 捕獲による個体数低減化・根絶の可能性、放置による希少種絶滅の高い可能性。
- 2000年度 環境庁（2001年から環境省）による駆除事業開始（生捕わな、報奨金制度）  
→ 個体数低減化の一方で分布域拡大 → 森林内、低密度地域の捕獲圧不足  
→ 常勤従事者の必要性。
- 2003年度 常勤従事者による森林内捕獲開始（生捕わな）、有害駆除終了  
→ 捕獲努力量の絶対的不足 → 捕殺わな導入 → 混獲死発生 → わなの改良。
- 2004年度 外来生物法制定。
- 2005年度 外来生物法施行、フイリマングースの特定外来生物指定、「防除実施計画（2005-14年度）」策定、常勤従事者（バスターズ）チーム結成（報奨金制度終了）  
→ 捕獲努力量増大 → 個体数低減、分布域の縮小・断片化  
→ 残存個体捕獲技術の必要性。
- 2007年度 探索犬育成開始（08年初捕獲）。
- 2011年度 ピンポイント捕獲チーム結成。
- 2012年度 「第2期防除実施計画（2013-22年度）」策定。
- 2017年度 毒餌の使用。
- 2018年度 4月にオス1頭が捕獲（以降、生息確認なし） → 根絶確率推定の必要性。
- 2024年度 根絶確率推定値に基づく根絶宣言。

### 3. 目標（根絶）を実現させたポイント

- ① 順応的管理：評価に基づく管理手法の継続的改良
  - ・目標の明確化
  - ・モニタリングの実施とデータの分析・評価（目標に接近していることの確認）
  - ・防除計画の策定とフェーズ（後述）の認識
- ② 効果的な捕獲法を含む管理手法の開発と適用
  - ・捕獲圧空白域を作らない
  - ・混獲死の許容（捕食影響>混獲影響）
  - ・殺処分の許容
- ③ 体制
  - ・一つにまとまった組織と決定プロセス
  - ・問題を理解し使命感をもった人材
- ④ 十分な予算の確保
- ⑤ その他
  - ・比較的限定された管理対象地域
  - ・早期の対応（早ければ早いほど良い）

### 4. 外来種個体群の状態と防除対策のフェーズ

フェーズ	個体群	管理目標	対策
I	蔓延期	個体数低減化	効率的捕獲
II	低密度期	超低密度化	捕獲圧増大
III	超低密度期	根絶	残存個体排除